

6.2 教育研究指導のあり方

進捗状況報告

【6.2.1 カリキュラムにおける高・大接続】

経済学入門教育は、経済・経済学基礎部会で評価・検討が続けられており、とくに「経済と経済学の基礎 A・B」については2008年度より内容を変更することとなっている。また、それに合わせて「経済と経済学の基礎C」も2009年度に内容を変更するよう検討が始まっている。

【6.2.2 履修指導】

入学時の履修指導やキャリアデザイン指導などについては、毎年、改良を加えながら実施されている。コース選択は履修上重要であり、この点での履修指導が十分であるかどうかは、経験が蓄積されつつあるので、今後検討していく必要がある。キャリアデザイン教育は、教務課（キャリアデザインプログラム）やキャリアセンターによる授業、講演会、制度等に関して周知を図り、利用を奨励している。また、それらを補完する経済学部独自のキャリア指導の実施について検討している。

【6.2.3 社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮】

留学生は毎年定員の2倍強～4倍強の応募があり（2005～2007年度入学生）、量より教育の質の向上が求められてきている。留学生からの意見も参考にしながら、留学生用クラス設定の調整や入試選考段階での改善の可能性などを具体的に検討してきている。なお、社会人についての学部内での指導は一般学生と同様で、とくに特別な指導をしていない。

学内第三者評価

2003年に設定された目標は、2005年の改善方策とその進捗状況報告で見られるとおり、概ね順調に展開されている。そのうち、経済学入門の教育、とくに「経済と経済学の基礎」の改善が進められていること、また、入学時の履修指導やキャリアデザイン指導の充実が図られているのは、評価できる。

ただ、履修指導とキャリア指導（経済学部独自のそれを含む）のそれぞれの具体化が期待される。その他、留学生用クラス設定の調整や入試選考段階での改善が検討されており、追跡調査に基づくフィードバックの検討も望まれる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

・ 不断に改善が検討されていると判断され、評価できる。留学生の受け入れは負担を伴う場合もあるが、貴大学の建学の精神とも関連するので、開かれたキャンパスのイメージや日本人学生の国際性涵養のためにも今後の展開が期待される。